

# 函館港若松ふ頭「函館クルーズターミナル」完成

函館市 港湾空港部 港湾課

函館港は、我が国初となる国際貿易港として、開港から160年を越える歴史を持ち、北海道と本州を結ぶ交通の要衝や、北洋漁業の基地などの役割を果たしながら、道南唯一の重要港湾として発展し、海運や造船をはじめとした様々な産業が集積し、長年にわたり地域経済を支えてまいりました。

近年、国内港湾へのクルーズ船の寄港回数が、アジアの経済成長などを背景として大きく増加しているなか、函館山からの夜景や五稜郭などの豊かな観光資源を目指して、本港へのクルーズ船寄港回数も増加し、コロナ禍前の令和元年では、4年連続道内最多の47隻となり、まさに大きな賑わいと経済効果をもたらしました。

若松ふ頭においては、平成29年から国の直轄事業による旅客船岸壁の整備が進められ、平成30年10月から暫定供用が開始し、それまで港町ふ頭で受け入れてきた客船が若松ふ頭にも寄港することとなりました。

このような中、函館市では、乗員乗客の受入れ環境の改善や外国船の出入港に伴う審査業務の円滑化を図るため、令和3年度に若松ふ頭で北海道初となるクルーズ船専用の旅客ターミナル建設に着手し、令和4年8月完成に至りました。

この「函館クルーズターミナル」は、鉄骨造地上1階建、延べ床面積1,234㎡で、12万総トン級のクルーズ船が若松ふ頭に寄港することを想定し、外国船の出入港に伴う審査業務を円滑に行うための手続きカウンターなどCIQ(税関・出入国審査・検疫)機能のほか、旅行者の利便性向上のため、観光案内デスク、多目的トイレ、授乳室や無料のWi-Fi設備なども備えております。また、旅行者の観光意欲を高めるため、函館山を大パノラマで見渡せるよう、ロビーの壁面をガラス張りとしているほか、内装に道南スギや赤レンガ風のデザインを採用するなど、地域資源の活用や周辺施設との調和にも努めた施設となっております。

今後は、ターミナル周辺における観光バス等の駐車場やタクシールールの整備を行うほか、屋根付き通路の整備も予定しております。

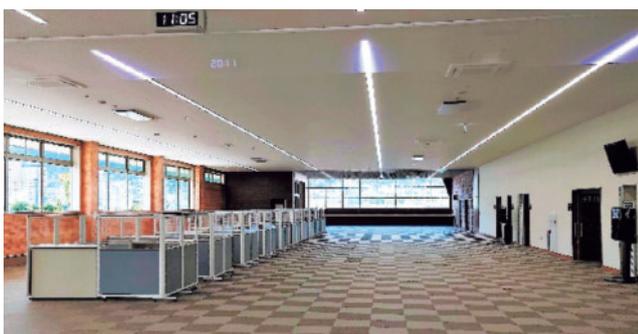
現在は、新型コロナウイルス感染症の影響により、国内クルーズ船のみの入港となっておりますが、今後、海外からの大型クルーズ船の入港を見据え、「函館クルーズターミナル」は、国際観光都市・函館の新たな海の玄関口として、国内外から多くの観光客をお迎えし、本市を含む道南全体の観光振興や地域振興の拠点となることを目指してまいります。



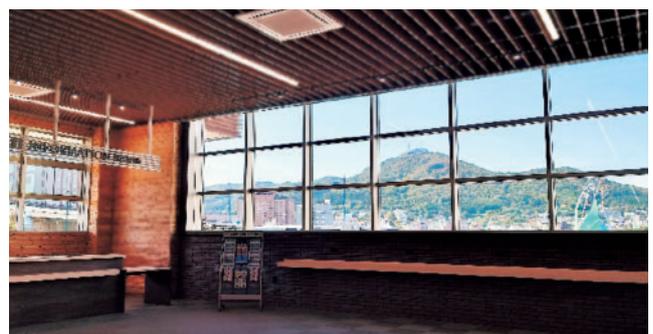
函館クルーズターミナル外観



函館クルーズターミナル外観



CIQ ホール



ロビーから望む函館山